

【オープンキャンパス！

良い参加の仕方、悪い参加の仕方】

皆さん、こんにちは。Z会進路指導担当の富崎です。

皆さんはマックス・ウェーバーの『職業としての学問』を読んだことがあるでしょうか(100pにも満たない薄い本なので、興味があれば是非)。ウェーバーは著書のなかで、情熱無しに、ある種の体験だけを求める人は学問に向いていない、と述べています。結果が出る出ないにかかわらず、その行為自体に夢中になれるかどうか、成果を追い求める現代の風潮では難しい生き方ですが、時代に流されることなく、基本姿勢を意識することが重要なのでしょう。

さて、現高2生の皆さんは、夏を過ぎると来年の大学入試に向けて、高3次の科目選択等を迫られることとなります。よって高2の夏は将来の進路についてじっくり考えるべき時期と言えます。

進路を考えるきっかけとして、学校で開催される進路説明会や、各大学で実施されるオープンキャンパスは良い機会でしょう。

特に大学のオープンキャンパスの参加は高2が実質ラストチャンスとなります。高3生になってからも参加はできますが、高3の夏は受験勉強や模試受験に邁進する時期ですので、あまり時間的余裕がありません。

高3生に比べて時間的余裕があるといっても、貴重な夏休みの時間を使って参加するわけですから、将来の進路や志望校に向けた学習について、しっかり考える機会としてください。

オープンキャンパスの参加の仕方は大学・個人それぞれですが、良い参加の仕方とあまりよろしくない参加の仕方を以下にまとめました。

☆良い参加の仕方

- ・参加前に、大学案内やアドミッションポリシーに目を通して、その大学の特徴について自分なりに情報を得ている。
- ・予め、志望大学・学部の入試科目や配点を調べておいて、そこから課題となる教科を割り出したうえで、学生への個別相談会に臨む。
- ・学問的興味をもって、模擬授業に参加する。

★よろしくない参加の仕方

- ・とりあえず参加すれば、何かしらの感銘を得られるだろうと思っている。
- ・先輩学生から、参考になりそうな学習アドバイスをもらって満足する。
- ・大学の中身よりも雰囲気重視で参加する。

その場の「体験」だけを重視する姿勢では、大学に行ってから学びの本質を見誤ります。気軽に参加できるオープンキャンパスと言えども、真摯な姿勢で臨めるかどうか、皆さんの将来の進路がかかっています。どうか悔いのない進路選択を！